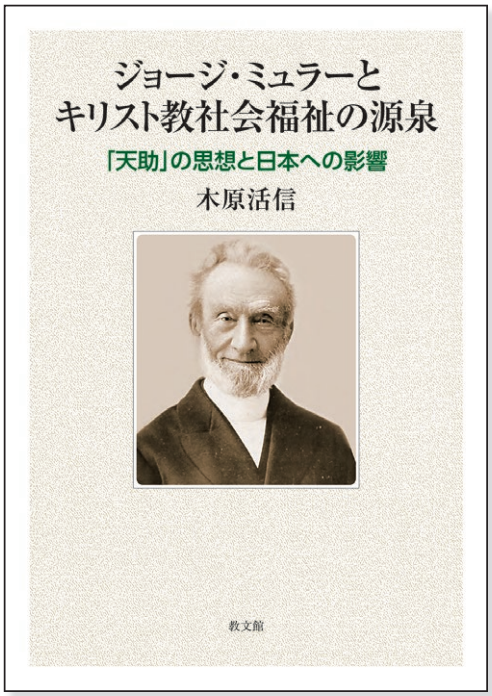
ジョージ・ミュラーとキリスト教社会福祉の源泉

「天助」の思想と日本への影響

木原 活信 著



1万人の孤児を救った「祈りの人」の真の姿に迫る！

19世紀イギリスで伝道と孤児事業に献身し、キリスト教社会福祉の先駆者となったジョージ・ミュラー（George Müller, 1805-1898）。その生涯と功績を実証的に明らかにするとともに、思想の形成過程を分析し、山室軍平や石井十次ら日本の社会福祉史への影響を探る。従来の偉人伝から脱構築された新たなミュラー像を提起した画期的研究！

《著者紹介》**木原活信**（きはら・かつのぶ）… 1965年福岡県生まれ。同志社大学大学院文学研究科博士課程修了。博士（社会福祉学）。現在、同志社大学社会学部教授。日本社会福祉学会前会長、日本キリスト教社会福祉学会現会長。著書に『J. アダムズの社会福祉実践思想の研究』（川島書店、第5回福武直賞受賞）、『対人援助の福祉エートス』（ミネルヴァ書房）、『社会福祉と人権』（同）、『「弱さ」の向こうにあるもの――イエスの姿と福祉のこころ』（いのちのことば社）、『宗教と対話――多文化共生社会の中で』（共著、教文館）、『良心学入門』（共著、岩波書店）ほか。

A5判・上製・300頁・定価5,060円（本体4,600円＋税）・ISBN 978-4-7642-7466-2　C3016